田んぼのまわりには、イモリやカエルなどの両生類、カメやヘビなどのは虫類も多く見られます。田んぼへは産卵のためやエサを食べにやってきます。

田んぼのまわりには、貝やエビなどの甲殻類も多く見られます。田んぼの水がなくなると、貝はどこにいくのでしょう。

アカハライモリの幼生
（小田原市）

●トウキョウダルマガエル
アカガエル科。体長40～85mm。平地、丘陵地などの田んぼや湿地に見られますが、数は減少しています。「グゲゲゲゲ、グゲゲゲゲ」となきます。産卵期は4～7月で、主に田んぼで産卵します。

●シュレーゲルアオガエル
アオガエル科。体長30～55mm。丘陵地、山沿いの田んぼや湿地などで見られます。「コロコロコロコロ」となきます。産卵期は4～6月で、田んぼの畦（あぜ）の土の中で産卵します。

●クサガメ
バダグールガメ科。甲長200～250mm。河川、池、田んぼ、湿地などで見られます。産卵期は6～8月ごろで、水辺の近くに穴を掘って産卵します。

●シマヘビ
ナミヘビ科。全長80～200cm。平地、丘陵地、河川敷、田んぼなど広い範囲で見られます。田んぼにカエルが多くなる時期によく見られます。産卵期は7～8月ごろです。

●カワニナ
カワニナ科。殻高約30mm。平地から山間部の河川、用水路などで見られますが、田んぼの中では多くありません。産卵期は5～10月ごろで、卵胎生のため稚貝を産みます。ゲンジボタルの幼虫のエサになります。

●マルタニシ
タニシ科。殻高約60mm。平地の田んぼや池、湿地、用水路などで見られます。産卵期は5～8月で、卵胎生のため稚貝を産みます。冬季は田んぼなどの泥のなかで越冬します。

●ヒメタニシ
タニシ科。殻高約35mm。平地の田んぼや池、湿地、用水路などで見られます。生態はマルタニシと同じですが、比較的汚れに強いのが特徴です。マルタニシと同じ水域で見られることもあります。

●ヒメモノアラガイ
モノアラガイ科。殻長約10mm。平地の田んぼや池、用水路などで見られます。産卵期は5～9月ごろで、ゼラチン質の卵のかたまりを産卵します。ヘイケボタルの幼虫のエサになります。

●ドブシジミ
ドブシジミ科。殻長約10mm。田んぼや用水路などの泥の多いところで見られます。生態はよく分かっていませんが、雌雄同体で卵胎生です。

●ヌカエビ
ヌマエビ科。体長約25mm。河川、用水路、池、田んぼなどで見られますが、数は多くありません。産卵期は6～9月ごろです。

◆ホウネンエビ

田んぼの中には、ホウネンエビという生きものがいます。エビやカニの甲殻類の仲間ですが、カブトエビやミジンコなどのグループに属します。体長約20mmで、細長い体型をしています。体色は半透明のうすい黄色からうすい緑色で、尾はうすい赤色をしています。腹を上にして泳ぐのが特徴です。春になり田んぼに水が入ると、耐久卵がふ化し幼生が出てきます。１ヶ月ほどで成熟し、交尾後メスは耐久卵を産卵し、その後オス、メスとも死亡してしまいます。耐久卵は乾燥や高温、低温に耐えられ、水がたまる翌年まで卵のまますごします。最近では、田んぼの減少などにより生息地は少なくなっています。写真は、平成17年に小田原市内で見られた個体です。

ホウネンエビ
（上から見たところ）

ホウネンエビのメス

ホウネンエビのオス

「こんな生きものも！」

田んぼの中には、こんな生きものもいます。これはミズダニの仲間です。体長約１mm。田植え後、水面を観察していると、ミジンコなどに混じって、色鮮やかな赤色をした生きものが不規則に動いています。これがミズダニだったのです。アカミズダニなどいくつかの種類が田んぼに生息していますが、最近はほとんど見られなくなってしまいました。幼虫の時期には、水生昆虫のタイコウチ、ミズカマキリ、ゲンゴロウなどに寄生しますが、若虫や成虫はミジンコやユスリカなどを食べています。ミズダニ類は、人や植物（イネなど）に害を及ぼすことはありません。

ミズダニの一種

◆ほ乳類

田んぼのまわりでは、ほ乳類の仲間も見られます。数は多くありませんが、遠くから観察してみましょう。

カヤネズミの巣
（茅ヶ崎市）

●カヤネズミ
ネズミ科。体長50～80mm、尾長60～80mm。田んぼや沼地、河川敷などで見られます。イネ科の植物が生育するところに生息し、植物を編んで球状の巣をつくります。

●ハタネズミ
ネズミ科。体長90～130mm。田んぼや畑、河川敷などで見られます。田んぼの畦（あぜ）などでエサをとったり、生活の場所にしています。

◆水生昆虫

田んぼのまわりには、イネの害虫やその害虫を食べる昆虫など、数多くの昆虫が見られますが、ここでは、水の中で生活している昆虫を見てみましょう。

トンボの仲間：卵から幼虫の期間だけ水中生活

●イトトンボの仲間
イトトンボ科。キイトトンボ、アジアイトトンボ、クロイトトンボなどが田んぼや池などで見られます。

●シオカラトンボ
トンボ科。体長約20mm。幼虫や成虫は田んぼ周辺でよく見られます。メスの成虫は麦わら色で、オスとは異なります。

●アキアカネ
トンボ科。体長約18mm。ナツアカネ、アキアカネを一般にアカトンボと呼ぶことがあります。幼虫は田んぼで見られます。成虫は夏の暑い時期を丹沢や箱根などの高い山ですごし、秋に田んぼに戻って産卵します。

●ウスバキトンボ
トンボ科。体長約22mm。幼虫は、田んぼや一時的な水たまりで見られます。毎年春に南方から飛来し、繁殖しながら分布を広げますが、寒さに弱いため越冬は難しいようです。

カメムシの仲間：幼虫から成虫まで、水中や水上で生活

●ヒメイトアメンボ
イトアメンボ科。体長約9mm。田んぼや池などで見られます。

●アメンボ
アメンボ科。体長11～16mm。田んぼや用水路、池などで見られます。

●ヒメアメンボ
アメンボ科。体長約10mm。田んぼや池、一時的にできた水たまりなどで見られます。田んぼに多くいます。

●オオコオイムシ
コオイムシ科。体長23～26mm。田んぼや湿地、休耕田、池など比較的水深の浅いところで見られます。メスがオスの背中に産卵し、オスがふ化するまで守ります。コオイムシより少し大きくなります。

●タイコウチ
タイコウチ科。体長約35mm。田んぼや用水路、池などで見られます。中干しなどで水がなくなると、歩いて移動します。

●ミズカマキリ
タイコウチ科。体長40～50mm。田んぼや用水路、池などで見られます。

●コミズムシ
ミズムシ科。体長約6mm。田んぼや池などで見られます。

●マツモムシ
マツモムシ科。体長約13mm。田んぼや池などに見られます。腹を上にして泳ぎます。

コウチュウの仲間：幼虫から成虫まで、一生水中で生活

●マメゲンゴロウ
ゲンゴロウ科。体長6～8mm。田んぼや湿地、池などに普通に見られます。

●ハイイロゲンゴロウ
ゲンゴロウ科。体長10～16mm。田んぼなどで見られますが、数は減少しています。

●シマゲンゴロウ
ゲンゴロウ科。体長12～15mm。田んぼなどで見られますが、かなり減少しています。

●コシマゲンゴロウ
ゲンゴロウ科。体長9～11mm。田んぼ、湿地、池などで普通に見られます。

●ミズスマシ
ミズスマシ科。体長6～8mm。田んぼ、池などで見られます。水中を見る目と空中を見る目の4つの目を持っています。現在かなり減少しています。

●ヒメガムシ
ガムシ科。体長9～11mm。田んぼや池などに普通で、数も多く見られます。

●コガムシ
ガムシ科。体長16～18mm。平野部の田んぼや池などに見られます。以前は多く見られましたが、最近はかなり減少しています。

●ガムシ類の幼虫
体長約20mm。田んぼで6～8月に見られます。肉食性でユスリカなどの小動物を食べます。

◆野鳥

田んぼのまわりで見られる主な野鳥です。遠くから観察してみましょう。

●アマサギ
サギ科。全長約50cm。田んぼや湿地などで見られます。夏鳥として飛来します。くちばしは黄色で、夏羽は頭から胸と背も黄色く、他は白色をしています。

●コサギ
サギ科。全長約60cm。田んぼや池、用水路などで見られます。頭から尾まで白色で、くちばしと足は黒く、指だけが黄色をしています。夏羽では、後頭に２本の長い冠羽があります。

●チュウサギ
サギ科。全長約68cm。田んぼや用水路で見られます。くちばしは短く、頭から尾まで白く、目とくちばしの間は黄色をしています。

●アオサギ
サギ科。全長約90cm。国内最大級のサギで、田んぼや池などで見られます。頭は白く、目の上から後頭の冠羽まですじ状に黒く、首は淡灰色で、のど側に黒点があります。くちばしと足は黄褐色をしています。

●バンの巣と卵（茅ヶ崎市）
2004年7月に田んぼのなかで見られました。イネなどの植物を利用して巣をつくります。巣は地上約35cmのところにありました。

●ふ化したバンのヒナ（茅ヶ崎市）
同じところのもので、ふ化したヒナが2羽と卵が3個ありました。先にふ化したヒナ3羽は、親鳥のあとを歩いているのが観察できました。

●カルガモ
カモ科。全長53～63cm。田んぼや池、用水路などで見られます。体は褐色と白色で、目には黒いラインがあり、くちばしは黒く先は黄色をしています。

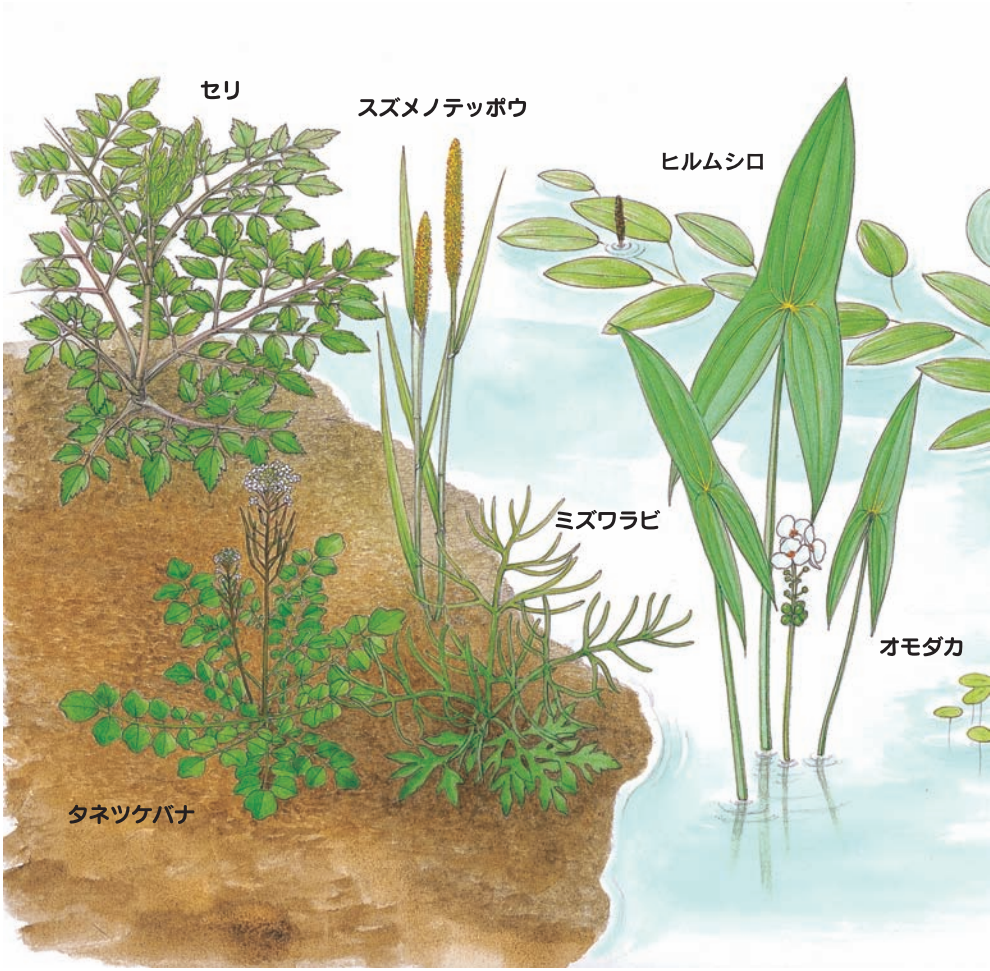
●オオヨシキリ
ウグイス科。全長約18cm。川や池、休耕田などのヨシ原で見られます。夏鳥として飛来します。体の上面は茶褐色で、下面は淡黄色をしています。

●バン
クイナ科。全長約32cm。田んぼや岸に草が生育している池、川などで見られます。体は全体に黒っぽくて、脇に白い羽があり、赤い額（ひたい）と黄色い足が目立ちます。

●セッカ
ウグイス科。全長約12cm。田んぼや川岸などのイネ科植物の生育している場所で見られます。体は全体に黄褐色で、下面は淡黄色、上面には黒い縦斑があります。

◆植物

田んぼのまわりで見られる主な植物を見てみましょう。



●ミズワラビ
ホウライシダ科。抽水植物で一年草。田んぼや用水路などの岸よりで見られます。稲刈り後に目につくことが多くなりますが、農薬に弱く、自生地の開発などにより近年減少しています。

●オモダカ
オモダカ科。抽水植物で多年草。田んぼや池、湿地などで見られますが、特に休耕田に多く出現します。アギナシに似ていますが、葉の先端はするどくとがっています。8～10月にかけて白い花が咲きますが、田んぼの雑草です。

●ヒルムシロ
ヒルムシロ科。浮葉植物で多年草。田んぼや用水路、休耕田などで見られます。浮いている葉は長さ約100mmの長だ円形をしています。

●コナギ
ミズアオイ科。抽水植物で一年草。主に田んぼで見られます。9～10月にかけて紫色の花が咲きますが、田んぼの雑草です。

●スズメノテッポウ
イネ科。湿性植物で越年草。田おこし前の田んぼに群生して見られます。稲刈り後に芽をだし、翌年の4～5月ごろに、まっすぐな穂に小さな黄色い花をつけます。草笛ができます。

●アオウキクサ
ウキクサ科。浮遊植物で一年草。田んぼ、用水路などで見られます。葉状体（茎が変形したもの）は2.5～5mmの卵形で、裏側は淡緑色をしています。根は1本。

●ウキクサ
ウキクサ科。浮遊植物で多年草。田んぼや用水路などで見られます。葉状体は3～10mmの丸みのあるだ円形で、裏側は紫色をしています。根は3～21本が束となり、たれさがっています。

●タネツケバナ
アブラナ科。湿性植物で越年草。春の田んぼに多く見られます。名前は、白い花が咲くころ（3～5月）にイネの種籾（たねもみ）を水につけ、苗代の準備をするという農事暦からついたといわれています。

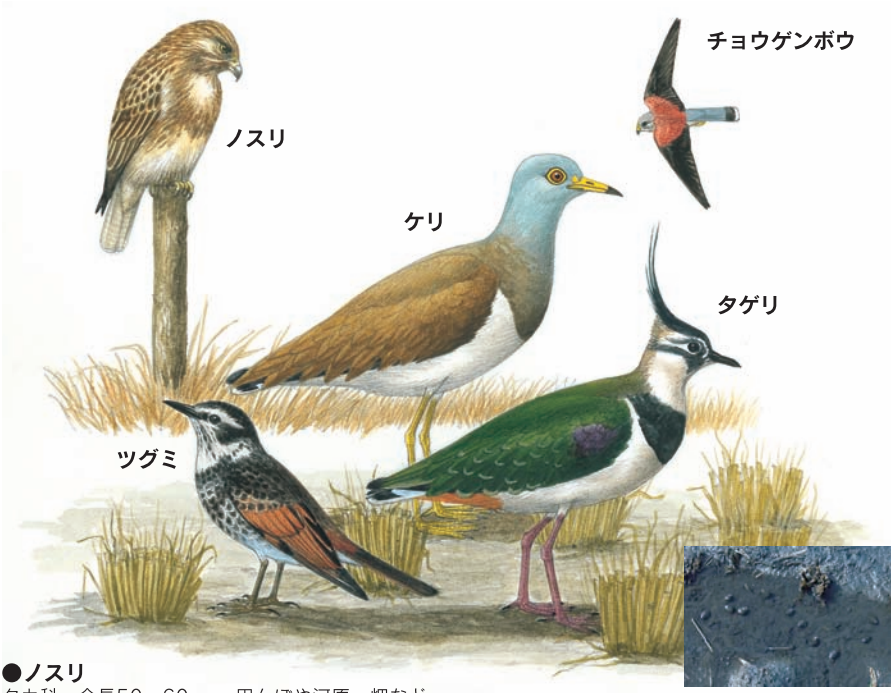
●セリ
セリ科。湿性植物で多年草。田んぼや湿地、用水路、小川などで見られます。夏に白い小さな花を多くつけます。春の七草の一つです。

畦（あぜ）の植物

畦（あぜ）に普通に見られる植物にムラサキサギゴケがあります。4～5月にムラサキ色の花をつけます。また、オヘビイチゴは、5つの小葉をもち、5～6月に黄色い花をつけます。

◆冬に見られる生きもの

稲刈りが終わり、翌年の田植えまでの秋、冬、春、この期間、田んぼではどのような生きものが見られるのでしょうか。稲刈り後、取り残されたタニシは、泥のなかにもっぐって越冬します。タイコウチも泥のなかに、ヒメガムシはため池などで岸よりの浅いところで越冬しています。よく目につく生きものに渡り鳥がいます。冬の田んぼの鳥を観察してみましょう。



田んぼに取り残されたタニシ

●ノスリ
タカ科。全長50～60cm。田んぼや河原、畑などで見られます。ネズミやカエル、ヘビなどのエサを上空から急降下してつかまえます。

●チョウゲンボウ
ハヤブサ科。全長33～39cm。田んぼや畑、河原などで見られます。ネズミや小鳥などを食べます。

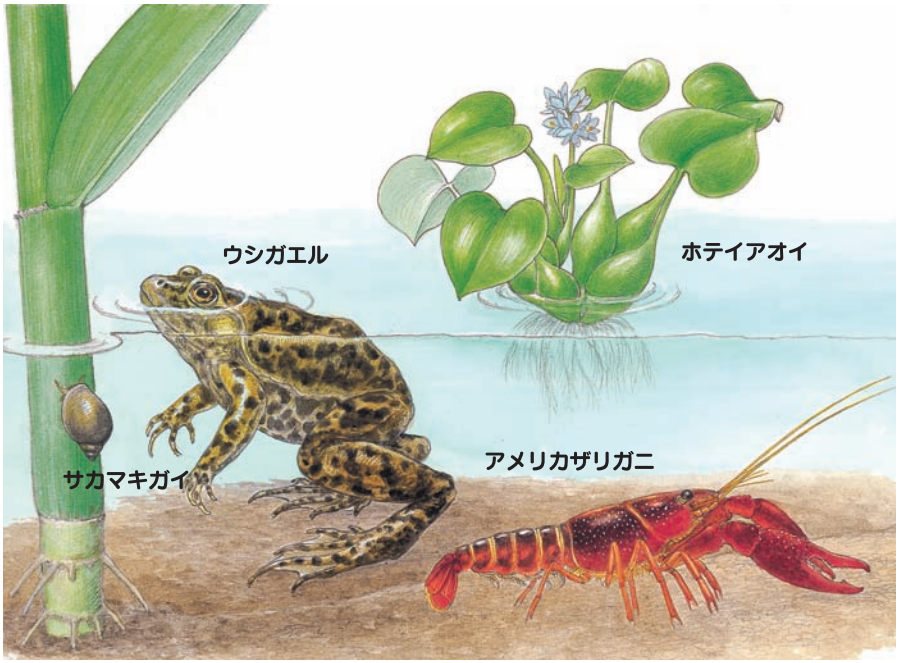
●タゲリ
チドリ科。全長約32cm。冬鳥として飛来し、稲刈り後の田んぼで見られます。頭の冠羽が特徴で、片足を地面でふるわせて（ける）、出てきた昆虫などを食べます。

●ケリ
チドリ科。全長約36cm。田んぼや河原、湿地などで見られます。田んぼなどで昆虫や草の種子などを食べます。

●ツグミ
ツグミ科。全長約24cm。冬にシベリア東部から飛来します。稲刈り後の田んぼで昆虫やミミズなどのエサを食べます。

◆外来種

外来の生物が問題になっていますが、それでは、田んぼのまわりではどのような外来種が見られるのでしょうか。



●ウシガエル
アカガエル科。体長110～180mm。田んぼや池、用水路などで見られます。食肉用としてアメリカから移入されました。眼の後ろに大きな鼓膜をもち、オタマジャクシも大きくなります。

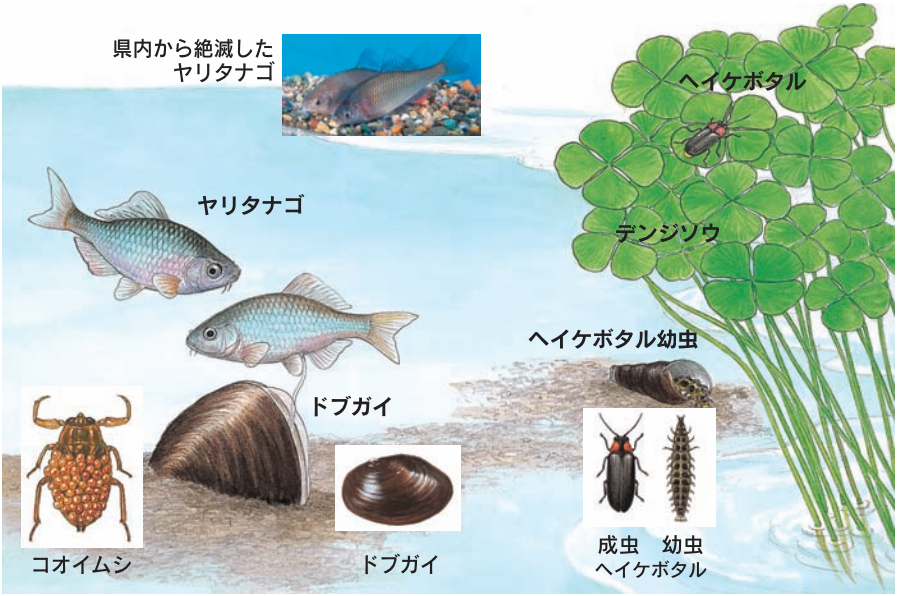
●アメリカザリガニ
ザリガニ科。体長60～120mm。田んぼや池、用水路、川のよどみなどで見られます。ウシガエルのエサとして持ち込まれました。雑食性です。

●サカマキガイ
サカマキガイ科。殻高８～15mm。田んぼや池、用水路などで見られます。ヨーロッパ原産の巻き貝で、田んぼで見られるほかの貝と異なり、殻は左巻きです。

●ホテイアオイ
ミズアオイ科。浮遊植物で１年～多年草。主に池や用水路などで見られますが、田んぼでも繁茂します。南米原産で明治時代に観賞用として持ち込まれたといわれています。

田んぼで見られなくなった生きもの

田んぼのまわりから見られなくなった生きものや少なくなった生きものがいます。なぜ見られなくなったのでしょう。魚、昆虫、植物などで、見られなくなった、少なくなった代表的な生きものを取りあげました。



●ヤリタナゴ
コイ科。体長約100mm。２本の口ひげがあります。かつて平野部の川の支流や用水路などで見られましたが、県内からは絶滅したものと思われます。ドブガイやマツカサガイなどの二枚貝のエラに産卵しますが、これらの二枚貝もほとんど見られなくなりました。このほかに、県内にはかつてタナゴ、ミヤコタナゴ、ゼニタナゴが生息していましたが、自然水域から見られなくなってしまいました。

●コオイムシ
コオイムシ科。体長約20mm。抽水植物などが多い田んぼや池などで見られますが、かなり減少しています。

●ドブガイ
イシガイ科。殻長150～250mm。かつて池や用水路、川などで見られましたが、県内からはほとんど見られなくなりました。ヤリタナゴなどのタナゴ類がエラに産卵します。このドブガイの幼生は、ハゼのヨシノボリ類のヒレや体表に寄生します。約２週間で落下し、底生生活にはいります。この時期に寄生できなかった幼生は、成育できません。魚と貝の複雑な関係が見られます。

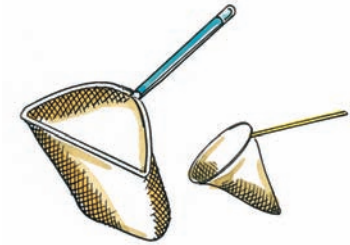
●デンジソウ
デンジソウ科。抽水・浮葉植物で、多年生のシダ植物。田んぼや池などの岸辺で見られますが、生息地の開発や農薬の影響で近年減少しており、県内の自生地は数カ所だけです。４枚の小葉が「田」の字に見えることから名前がついたといわれています。

●ヘイケボタル
ホタル科。成虫；体長７～12mm。幼虫；14～18mm。田んぼや用水路、池、湿地などで見られます。近年県内では減少しています。幼虫はカワニナやモノアラガイなどの巻き貝を食べます。よく似ているゲンジボタルとは、体が小さいことや背中にある黒い筋は十文字にならないことで区別できます。

さあ、田んぼにいってみよう！
（観察のすすめと観察のマナー）

田んぼや用水路は農家の人たちの大切な場所です。ここでは観察に必要なグッズの紹介と観察の時に守ってほしいマナーについて書きました。特に観察するときはマナーを守ってください。

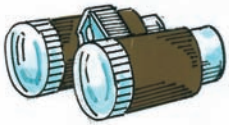
観察のグッズ



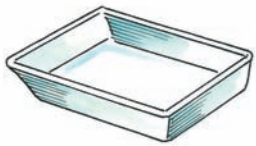
網（大小）：魚などの水生生物をつかまえるとき

ルーペ：小さな生きものを観察するとき

ピンセット：手ではとれない生きものを観察するとき

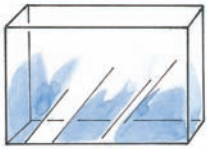


双眼鏡：鳥など遠くから観察するとき



バット：水生生物をいれて上から観察するとき

バケツ：水生生物をいれて上から観察するとき



アクリルケース：魚などを横から観察するとき

シャーレ：底生動物などの小さな生きものを観察するとき

ノート：観察した生きものの記録やスケッチをするとき

観察のマナー

田んぼのなかにはむやみに入らない。

観察は一人や子どもだけでは行かない。

川や水路はすべりやすく、深いところもあるので気をつける。

ゴミは持ち帰る。

危険な生きものに気をつける。

人にあったらあいさつをしましょう。(お話が聞けるかもしれない)

主な文献（順不同）

この冊子を読んで、もっと詳しく知りたい人は、次のような本がでていますので、参考にして下さい。

内山りゅう「田んぼの生き物図鑑」山と渓谷社／内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎「決定版 日本の両生爬虫類」平凡社／森　正人・北山　昭「図説 日本のゲンゴロウ」文一総合出版／滋賀自然環境研究会編「滋賀の田園の生き物」サンライズ出版／メダカ里親の会編「田んぼまわりの生きもの 栃木県版」下野新聞社／飯田市美術博物館「伊那谷の田んぼの生き物」飯田市美術博物館／近藤繁生・谷幸三・高崎保郎・益田芳樹「ため池と水田の生き物図鑑 動物編」トンボ出版／学研「日本産幼虫図鑑」学研／財団法人リバーフロント整備センター編「川の生物図典」山海堂／浜島繁隆・須賀瑛文「ため池と水田の生き物図鑑 植物編」トンボ出版／神奈川昆虫談話会「神奈川県昆虫誌」神奈川昆虫談話会／今村泰二「淡水動物の世界」近代文芸社／佐々　学「ダニ類 その分類・生態・防除」東京大学出版会／湊秋作「田んぼの生きものおもしろ図鑑」農文協／神奈川県環境科学センター「相模川水系の水生動物 川の生態系を構成するいきものたち」神奈川県／神奈川県植物誌調査会「神奈川県植物誌2001」神奈川県立生命の星・地球博物館／神奈川昆虫談話会「神奈川県昆虫誌」神奈川昆虫談話会／神奈川県環境科学センター「酒匂川水系の水生動物　里地・里山の生きものたち」神奈川県／高桑正敏・勝山輝男・木場英久編「神奈川県レットデータ生物調査報告書2006」神奈川県立生命の星・地球博物館／佐藤剛史・宇根　豊編「ふくおか農のめぐみ100ー生きもの目録作成ガイドブック2006ー」農と自然の研究所

編集

神奈川県環境科学センター環境保全部河川湖沼担当

編集協力・イラスト

森上義孝

お世話になった方々（敬称略、五十音順）

石原龍雄（箱根町立森のふれあい館）、沖津昭治（営農家）、神奈川県環境農政部農地課、岸　一弘（茅ヶ崎野外自然史博物館）、杉崎　茂（酒匂川メダカトラスト）、勝呂尚之（神奈川県水産技術センター内水面試験場）、鈴木国臣（三翠会）、高橋一公（酒匂川水系のメダカと生息地を守る会）、高橋由季（酒匂川水系のメダカと生息地を守る会）、浜口哲一（平塚市博物館）、平岩宏司（三翠会）、松本典子（平塚市博物館）、守屋博文（相模原市立博物館）

かながわ　田んぼの生きものウォッチング

発行所：神奈川県環境科学センター
〒254-0014　神奈川県平塚市四之宮1-3-39
TEL 0463-24-3311
発行日：2006年8月　初版第１刷発行
2009年3月　初版第４刷発行
印刷所：株式会社コスミック

本冊子の無断転載複製を禁じます。

クールネッサンス
COOL RENAISSANCE
KANAGAWA

PRINTED WITH SOY INK
この種子は、植物性インキを使用しております

神奈川県 環境科学センター
平塚市四之宮1-3-39 〒254-0014 電話(0463)24-3311(代表) FAX(0463)24-3300